



環境計画年次報告書

令和5(2023)年度版



川崎市上下水道局

報告書について

■対象期間

令和5（2023）年4月1日 から 令和6（2024）年3月31日

■対象範囲

水道事業、工業用水道事業及び下水道事業

■参考資料

この報告書は、環境省が公表したガイドライン及び環境会計ガイドラインを参考に作成しています。

【注】金額は、原則として消費税抜きで作成しています。

目次

事業概要 P4

川崎市の環境施策 P6

上下水道局環境計画の基本的事項 P8

環境方針及び環境施策の取組 P10

具体的な取組状況 P14

上下水道局における電気使用量の推移 P41

事業活動における物質フロー P43

水道事業ガイドライン指標 P44

汚水処理費用と効果 P45

環境会計 P46

事業概要

■ 水道事業

水道事業は、大正10(1921)年に多摩川の表流水を水源として給水を開始して以来、市域の拡大、人口の急増、産業活動の進展等による水需要の増大に伴い数次の拡張事業を行い、1日75万8,200㎥の給水能力を保有しています。

■ 給水人口	1,548,226人
■ 給水世帯	778,990世帯
■ 普及率	99.9%
■ 年間配水量	180,294千㎥
■ 1日最大配水量	520,900㎥ (令和5(2023)年7月2日)
■ 年間有収量	168,510千㎥
■ 有収率	93.5%
■ 配水管延長	2,427km
■ 職員数	544人
■ 水道料金収入	242億円

■ 工業用水道事業

工業用水道事業は、昭和12(1937)年にわが工業国初の公営工業用水道事業として給水を開始して以来、重化学工業を中心とした産業経済の基盤施設として整備・発展し、給水能力の見直しを経て1日52万㎥の給水能力を保有しています。

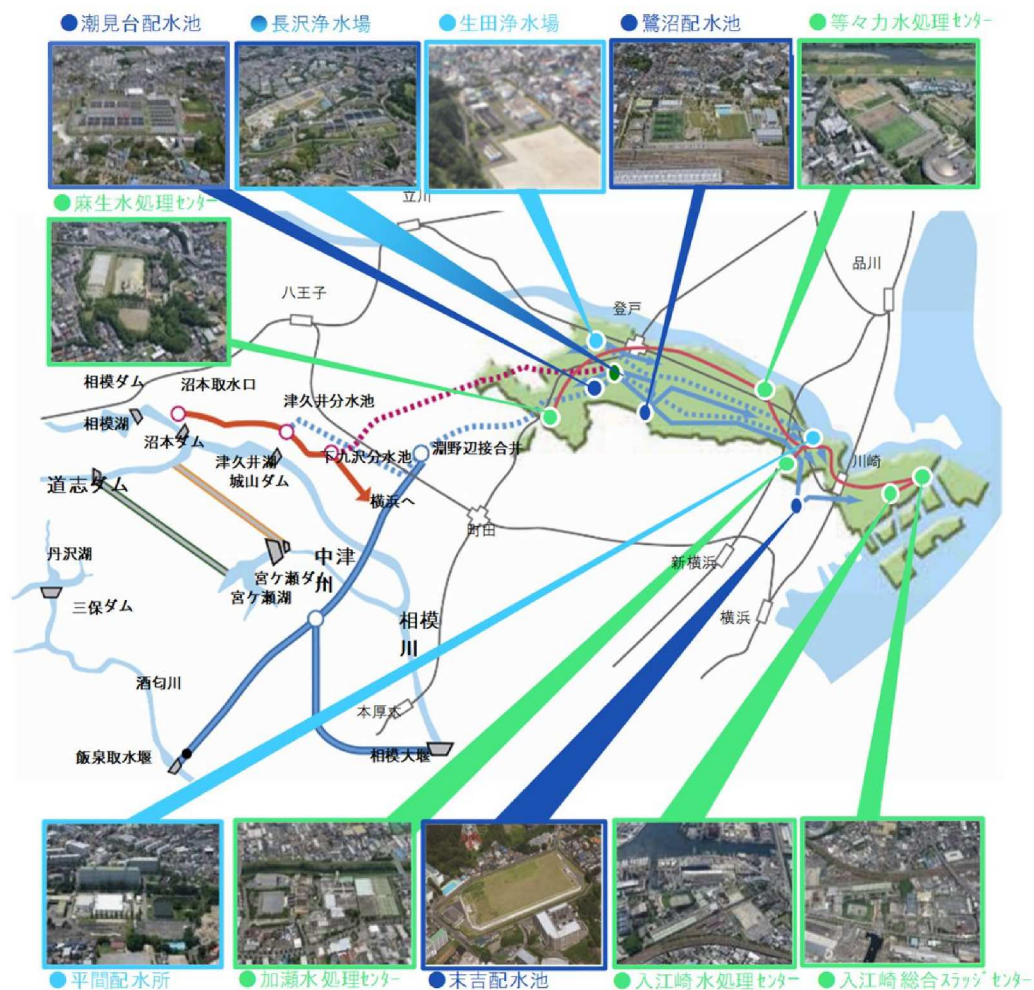
■ 契約会社・工場数	57社77工場
■ 年間契約水量	188,571千㎥
■ 1日最大配水量	130,404千㎥ (令和5(2023)年9月5日)
■ 配水管延長	43km
■ 職員数	75人
■ 水道料金収入	68億円

■ 下水道事業

下水道事業は、昭和6(1931)年に下水道の整備を始め、昭和50年代からの積極的な整備により、人口普及率99.5%、1日86万4,200㎥の処理能力を保有しています。

■ 処理人口	1,541,588人
■ 水洗化件数	762,063件
■ 普及率	99.5%
■ 年間処理水量	196,299千㎥
■ うち污水处理水量	176,168千㎥
■ うち雨水処理水量	20,131千㎥
■ 年間有収水量	151,396千㎥
■ 有収率	77.1%
■ 下水管延長	3,162km
■ 職員数	414人
■ 下水道使用料収入	219億円

上下水道事業概要図



【注】事業概要、上下水道事業概要図及び事業別施設能力における記述については、令和5(2023)年度末時点の数値を記載しています。

■水道事業

水系	区分	種別	水源水量	施設名	給水能力
相模川	表流水		422,000m ³ /日	長沢浄水場	252,600m ³ /日
酒匂川			495,200m ³ /日	(企業団※からの水道用水供給)	505,600m ³ /日
相模川			10,400m ³ /日		
計			927,600m ³ /日		758,200m ³ /日

■工業用水道事業

※企業団：神奈川県内広域水道企業団

水系	区分	種別	水源水量	施設名	給水能力
相模川	表流水		241,000m ³ /日	長沢浄水場	235,000m ³ /日
多摩川			200,000m ³ /日	生田浄水場	195,000m ³ /日
地下水	(浅井戸)		50,000m ³ /日		50,000m ³ /日
水道用水からの給水※			40,000m ³ /日	-	40,000m ³ /日
計			531,000m ³ /日		520,000m ³ /日

■下水道事業

※工業用水の水源としている水道用水であり、平成22(2010)年度から給水量等の見直しを行っています。

施設名	放流水域	排除・処理方式	処理能力
入江崎水処理センター	東京湾	合流式	318,600m ³ /日
加瀬水処理センター	矢上川	合流式 (一部分流式)	168,900m ³ /日
等々力水処理センター	多摩川 矢上川	分流式	313,900m ³ /日
麻生水処理センター	麻生川	分流式	62,800m ³ /日
入江崎総合スラッジセンター	-	濃縮・脱水・焼却	120t-ds/日